

阿智村教育委員会 令和6年4月定例会会議録

- 会議日時 令和6年4月25日(木) 午後1時30分
- 会議場所 阿智村中央公民館 会議室
- 出席者 教育長：黒柳紀春 教育長職務代理：原 勝人
委員：熊谷 歩 委員：熊谷 均 委員：塚田宏子
【事務局】
教育次長：川上 悟（全体進行）
こども家庭センター長：島岡佐喜子 社会教育係長：中里信之
保育園総園長：沖村信繁
学校教育係：村田浩一
学校教育専門主事：松澤 徹
（欠席）
学校教育専門主事：川上清宏 学校教育専門主事：佐々木豊
英語教育専門員：両角明浩

1 開会

2 教育長あいさつ

- ・第1回学校のあり方検討委員会について
- ・その他

3 議事事項

- (1) 阿智村の教育方針（確認）
 - ・承認
- (2) 学校運営協議会委員の任命について
（松澤学校教育専門主事説明）
 - ・承認

4 協議事項

- (1) 総合教育会議（5/21）の懇談事項について
（原 勝人 委員）

学校のあり方検討委員会がスタートしました。新聞記事にもありますが、阿智の学校の将来ビジョンについて意見交換をお願いしたい。今年の大事な施策としてこども家庭センターがスタートしたので、運営に関して意見交換をお願いしたい。

- (2) 第1回学校のあり方検討委員会について（報告）

(松澤学校教育専門主事 説明)

(塚田宏子 委員)

4月19日に駒場の地域福祉を考える会の役員会があった時に、あり方検討委員会がこれから始まるという話の中で、第一小学校の参観日に説明があつてお母さんがその時の冊子を持ってきてくれました。みんな関心興味があつて複式学級とか人数とかがわからないとか知らない人が多かった。自分が小学校の時にすでに複式学級だったという人がいたが、先生があっちに行ったりこっちに来たりで複式学級はだめだという話をしてくれた。自治会にも話をしてくれると思うが、資料を各家庭に配布するとか回覧で回すとかして興味がある人は手にとって見るだろうけれど、みんなに話をして広めてまとめていったらいいのかなと感じた。

(松澤学校教育専門主事 説明)

地域説明会では、各地区で資料を用意し、フォーラムの時も持って行ってもらえるように用意します。

(原 勝人 委員)

丁寧に資料を整えていただき、今日も報告してもらい大変かと思うが引き続きお願いしたい。

(熊谷 歩 委員)

資料が回覧板で配られてからになると思うが、村民からは合併するんでしょうとストレートに聞かれました。あり方検討委員会で検討するが、村民の関心は合併するんだろうなということを感じた。

(熊谷 均 委員)

ひと通り資料を見させていただいたが、資料を配ったからみんなが読んでくれると期待をしますが、回覧もそうですが、ちょっと見て細かいところは見ない。できれば自治会で説明をしてもらう。そうするとよくわかってもらえると思うし、その後周りの人たちへも話をしてくれる。できる限り説明の機会を設けてもらいたい。

(教育長)

今度の自治会説明会では資料の配布とともにパワーポイントで説明をします。2年間の間に自治会とPTAは複数回、審議が進む過程で説明をしてご意見を伺ってまいりたい。1回目は5月に予定していますが本年度は3回くらい開催できればと考えている。アンケートやパブリックコメントも何時実施するか正副委員長と相談して実施したい。

(3) その他

5 報告・連絡事項

(1) 各係より

① 村内小中学校支援を必要とする児童生徒への対応について（学校教育係）

(松澤学校教育専門主事 説明)

(原 勝人 委員)

中学校の数字が特筆してここ続いている気がする。生徒への支援体制は充実

していて良いと思うが、ここに至る事前の予防対策というか何か手を打っていく必要があるかと思いますので、色々な角度から支援が必要な生徒には対応をお願いしたい。

(こども家庭センター長)

児童生徒支援ネットワーク会議で発達療育特別支援に0歳から18歳までネットワークの対象としており、何らかの支援に入っている児童生徒は台帳を管理しているが、やはり今18歳までの児童生徒が1,000人くらいで推移しているが、児童台帳カードに名前がある児童生徒が130人くらいいる。このパーセントはネットワークとの関係と合致する。ネットワークは0歳からなので、乳幼児健診やそういうところから検診や発達の面でお医者さんや保健師さんに対応してもらうところから始まって、小さい子どもたちの療育の教室、保育園の療育から関わっていますので、早期発見・早期対応というところでは努めているところです。こういう数字になっていく年齢とともに、新しい課題が増えたりさまざまな二次傷害とまではなんです、成長の過程でまた新しい課題や本人の特性だったり強く表れてくるところも大きな特徴と考えている。切れ目のない支援を続けていくためにネットワークを作ったり台帳を有効活用して、未就園、保育園、小中高、それから20代の若者のところまで支援を続けていけるように努力したり、学校やさまざまな機関と連携しているのが現状である。

(松澤学校教育専門主事)

ネットワーク会議は発達特性が認められ支援学級に在籍している児童生徒が主なところである。昨年も行いましたが、通常学級で支援を必要とする傾向が見られるお子さんについては、各学校へ問い合わせをしてリストアップしてもらっているところである。早期発見のため早い段階での発見、支援、指導をできるようにまとめて、5月の校長会の折には校長先生たちとも共有して、それぞれ各学校で見えていただけるように進めたい。

(教育長)

保健師がこども家庭センターに加わったことも大きい。

(こども家庭センター長)

確かに、発達のことも小さい頃から関わってもらっている職員と一緒に学校とかに行けたりします、育ちの部分、家庭の部分から知っていて新たなステージにいても共に支援ができるというところで大変心強いと感じている。

(教育長)

民生課とは今までも連携してきたが、同じ部署の中でスタッフとして配置されていると認識も違ってくる。

(熊谷 均 委員)

知障とか自情障とかのクラスができると県費の職員が配置され、そこに村費の支援員も配置されるということでしょうか。

(松澤学校教育専門主事)

県の特別支援学級の設置基準があり、3人いれば新たに学級を設置することができる。3人が2人、1人に減った場合は猶予期間があるが、新たに作る場合は

3人いないと開設ができないことになっている。2人の場合、村の支援員を配置している。

(教育長)

教育委員に授業を見ていただく機会を設けたいと思います。学級の中に支援が必要な児童が複数いると学級担任は教えることが本当に大変である。一人の先生で見切れない時は村費の支援員を付けることで随分と違ってきます。

(原 勝人 委員)

去年は保育園を見学させていただきましたが、支援を必要とするお子さんの様子を見せていただいたり、教育支援センターを担当する職員と相談しながら実現できればよろしいと思う。

(教育長)

教育委員の皆さんにどのような状況にあるか見ていただき、特別支援の現状を知っていただくことは大切なことです。

② 第1回学力向上推進委員会の開催について(学校教育係)

(川上学校教育専門主事 説明)

③ 石割遺跡発掘調査について(文化財)

(社会教育係長 説明)

④ 飯伊市町村教委連絡協議会総会について(総務係)

(学校教育係 説明)

⑤ 西部地区教委連絡協議会総会及び研修会について(総務係)

(学校教育係：説明)

(2) 5月定例教育委員会開催予定日 5月21日(火)午後3時00分

(3) その他

6 閉会

(閉会 午後2時35分)

教育長・教育委員 署名／捺印